

DERWENT- 1999-453200
ACC-NO:

DERWENT- 199938
WEEK:

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Weaving of triple lace textile with a float - which is
made to float on surface of textile in a portion other
than molding portion

PATENT-ASSIGNEE: ISHIKAWA YG[ISHIN]

PRIORITY-DATA: 1997JP-0369537 (December 25, 1997)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
JP <u>11189949</u>	A July 13, 1999	N/A	004	D03D 015/00

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO	APPL-DATE
JP 11189949A	N/A	1997JP-0369537	December 25, 1997

INT-CL (IPC): D03D015/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 11189949A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - Molding threads such as gold or silver threads and silk threads are used for passing. Warps and weft of threads are woven to form a lace textile. A float (33) is made to float on the surface of the textile in portions other than molding portion (31).

USE - This is for a triple lace textile.

ADVANTAGE - Aesthetic appearance of the lace textile is improved.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows top view of a triple
lace textile. (31) Molding portion; (33) Float.

CHOSEN- Dwg.3/3
DRAWING:

TITLE-TERMS: WEAVE TRIPLE LACE TEXTILE FLOAT MADE FLOAT SURFACE
TEXTILE PORTION PORTION

DERWENT-CLASS: F03

CPI-CODES: F02-A04;

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C1999-133342

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-189949

(43) 公開日 平成11年(1999) 7月13日

(51) Int.Cl.⁶

D 0 3 D 15/00

識別記号

1 0 2

F I

D 0 3 D 15/00

1 0 2 A

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-369537

(22) 出願日 平成9年(1997)12月25日

(71) 出願人 398003474

有限会社いし川

京都府京都市北区紫野泉堂町80番地

(72) 発明者 石川 幸治

京都府京都市北区紫野東蓮台野町34-5

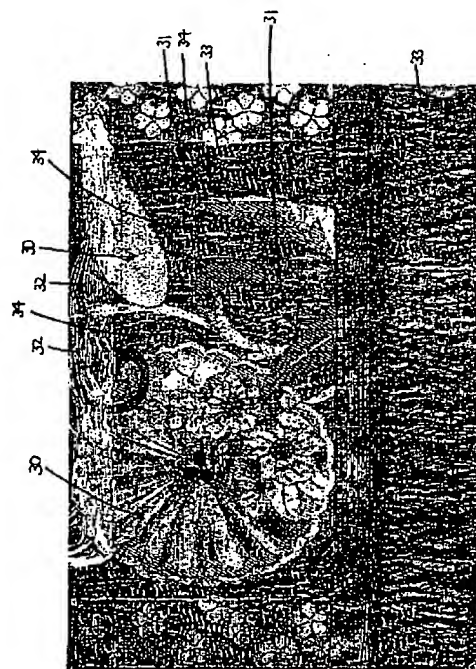
(74) 代理人 弁理士 武石 靖彦 (外1名)

(54) 【発明の名称】 経三重モール織物

(57) 【要約】

【課題】 看者に豪華さや重厚感を与えるような組織をもった改良されたモール織物を提供する。

【解決手段】 経にモール糸と撚糸を用い、これらの経糸を緯糸と織り合わせて製織されるモール織物において、経に浮糸33が織り込まれる。浮糸は、モール織物のモール部分以外の部分31において織物の表面に浮くようにされる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 経に金糸または銀糸と撚糸を用い、これらの経糸を緯糸と織り合わせて製織したモール織物において、

経に浮糸を織り込み、モール織物のモール部分以外の部分において前記浮糸を織物の表面に浮かせるようにしたことを特徴とする経三重モール織物。

【請求項2】 前記浮糸は、緯糸の4本〜10本分にわたって浮くように織り込まれていることを特徴とする請求項1に記載の経三重モール織物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、モール織物の改良に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、経に金糸または銀糸（以下、「モール糸」という。）と絹糸とを用い、緯に絹糸を用いて、これらの経緯糸を段織に織り、金筋または銀筋の柄を浮かしたモール織が知られており、女帯地などに用いられている。

【0003】この従来のモール織物は、柄を浮かせた部分（以下、「モール部分」という。）において厚みを有しているが、その他の部分は単調な外観を有しており、織物全体としては、豪華さや重厚感に欠けていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】したがって、本発明の課題は、看者に豪華さや重厚感を与えるような組織をもった改良されたモール織物を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため、本発明は、経にモール糸と撚糸を用い、これらの経糸を緯糸と織り合わせて製織したモール織物において、経に浮糸を織り込み、モール織物のモール部分以外の部分において前記浮糸を織物の表面に浮かせるようにしたことを特徴とする経三重モール織物を構成したものである。

【0006】上記の構成において、好ましくは、浮糸は、緯糸の4本〜10本分にわたって浮くように織り込まれている。

【0007】

【発明の実施の形態】以下、添付図面を参照しながら本発明の好ましい実施例について説明する。図1は、本発明による経三重モール織物のモール部分の図であり、（A）は組織の構造を示す織物の表側から見た平面図、（B）は経糸方向の断面図、（C）は緯糸方向の断面図である。また、図2は、本発明による経三重モール織物のモール部分以外の部分の図であり、（A）は組織の構造を示す織物の表側から見た平面図、（B）は経糸方向の断面図、（C）は緯糸方向の断面図である。

【0008】図1からわかるように、モール部分には、

経に、撚糸一、四、七、十、十三と、浮糸二、五、八、十一と、モール糸三、六、九、十二とが配列されており、緯には、地緯1〜8が配列されている。この実施例では、モール部分およびそれ以外の部分のいずれにおいても、モール糸は金糸からなっており、浮糸および地緯は適当な色糸からなっている。

【0009】モール糸三、六、九、十二はいずれも、地緯1、3、5、7の上に浮き、地緯2、4、6、8の下に沈んでいる。この場合、図1（B）に示したように、
10 モール糸aの三、六、九、十二における地緯bの1、3、5、7上に浮く部分には製織時に地緯とともに抜糸cが織り込まれており、この抜糸cが製織後に抜かれることによって、モール糸aの三、六、九、十二における地緯bの1、3、5、7上に浮く部分はわなを形成し、モール部分を形成する。なお、図1（A）は、抜糸を抜いた後の織組織を示したものである。

【0010】撚糸一、七、十三は、モール糸と同様に、地緯1、3、5、7の上に浮き、地緯2、4、6、8の下に沈んでいるが、撚糸四、十は、これと反対に、地緯
20 1、3、5、7の下に沈み、地緯2、4、6、8の上に浮いている。

【0011】撚糸一とモール糸三との間、撚糸四とモール糸六との間、撚糸七とモール糸九との間、および撚糸十とモール糸十二との間には、それぞれ、浮糸二、五、八、十一が配置されている。浮糸二、五、十一は、地緯1〜8の下に沈んでいるが、浮糸八は、地緯1、3、5、7の下に沈み、地緯2、4、6、8の上に浮いている。この浮糸八はモール部分の裏面を補強する機能を有している。

【0012】また、図1（B）に示したように、地緯1〜8の裏側には緯糸（金糸または銀糸）dが配置され、撚糸eによってとめられている。さらに、図1（B）には示されないが、地緯2、4、6および8の裏側には裏打ちが配置されており、これらの裏打ちによって、浮糸二、五、十一がとめられている。この状態は、図1（C）から容易にわかる。なお、図1（C）において、bは地緯を、fは裏打ちをそれぞれ示している。

【0013】図2に示したように、モール部分以外の部分には、経に、撚糸一、四、七、十、十三と、浮糸二、五、八、十一と、モール糸三、六、九、十二とが配列されており、緯には、緯糸（金糸または銀糸）1〜10が配列されている。

【0014】モール糸三、六、九、十二はいずれも、緯糸1、3、5、7の上に浮き、緯糸2、4、6、8、10の下に沈んでいる。また、撚糸一、七、十三は、モール糸と同様に、緯糸1、3、5、7の上に浮き、緯糸2、4、6、8の下に沈んでいるが、撚糸四、十は、これと反対に、緯糸1、3、5、7の下に沈み、緯糸2、4、6、8の上に浮いている。

【0015】撚糸一とモール糸三との間、撚糸四とモ

ル糸六との間、捌糸七とモール糸九との間、および捌糸十とモール糸十二との間には、それぞれ、浮糸二、五、八、十一が配置されている。そして、浮糸二と浮糸八は、緯糸1～5の上に浮き、緯糸6～10の下に沈んでいる。浮糸五と浮糸十一は、これと反対に、緯糸1～5の下に沈み、緯糸6～10の上に浮いている。すなわち、この実施例では、浮糸は、それぞれ、緯糸5本分の間隔で交互に浮き沈みしている。

【0016】図2(B)に示したように、緯糸dの1～10の裏側には、それぞれ、地緯bが配置され、捌糸g 10 によってとめられている。なお、図中、hは浮糸を示している。また、図2(C)からわかるように、捌糸四および十は、裏打ちiによってとめられている。なお、図中、jは緯糸を示している。

【0017】図3は、本発明による経三重モール織物の表側から見た平面図である。図3において、30はモール部分を、31はモール部分以外の部分をそれぞれ示している。また、32(織物の緯方向に波状にのびる太い白線)は抜糸であり、33(織物の経方向に波状に走る黒線)は浮糸であり、34(織物の緯方向に浮糸33と 20 交差して波状に走る細い白線)は緯糸である。

【0018】こうして、本発明による経三重モール織物によれば、モール部分以外の部分において浮糸が織物表面状に波状に浮くとともに、浮糸と交差して波状に走る緯糸(金糸または銀糸)が浮糸の隙間から見えるので、織物全体に重厚感や豪華さが与えられる。

【0019】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、経にモール糸と捌糸を用い、これらの経糸を緯糸と織り合わせるようにした従来のモール織物において、経に浮 30 糸を織り込みモール織物のモール部分以外の部分において浮糸を織物の表面に浮かせるようにしたので、モール織物全体に重厚感や豪華な感じを与えることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による経三重モール織物のモール部分の図であり、(A)は組織の構造を示す織物の表側から見た平面図、(B)は経糸方向の断面図、(C)は緯糸方向の断面図である。

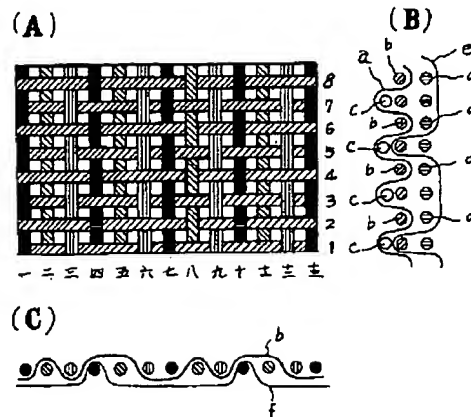
【図2】本発明による経三重モール織物のモール部分以外の部分の図であり、(A)は組織の構造を示す織物の表側から見た平面図、(B)は経糸方向の断面図、(C)は緯糸方向の断面図である。

【図3】本発明による経三重モール織物を表側から見た平面図である。

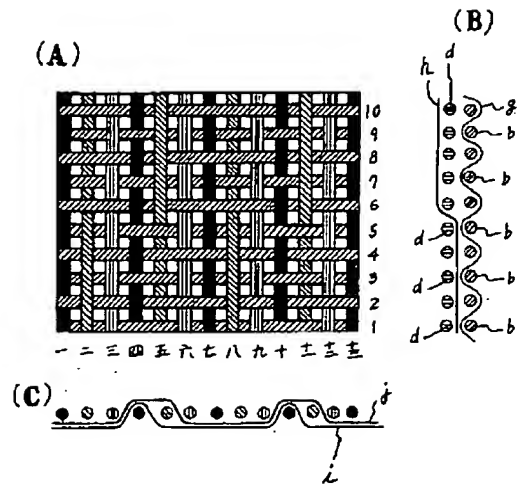
【符号の説明】

- 1～10 地緯
- 三、六、九、十二 モール糸
- 一、四、七、十、十三 捌糸
- 二、五、八、十一 浮糸
- 30 モール部分
- 31 モール以外の部分
- 32 抜糸
- 33 浮糸
- 34 緯糸
- a モール糸
- b 抜糸
- c 裏打ち
- d 捌糸
- e 地緯
- f 裏打ち
- g 裏打ち
- h 捌糸
- i 浮糸
- j 裏打ち
- k 地緯

【図1】



【図2】



【図3】

